

滝廉太郎『荒城の月』について

音楽 — 教育 — 調査研究のクロストーク

矢島潤平, 藤田光子, 淵上聖子, 恒松 栖

Three Approaches to Understanding the Song “KOJONOTSUKI”
 (“The Moon and the Ruined Castle”) from the Perspectives
 of Music, Education and the Local Community

Jumpei YAJIMA, Mitsuko FUJITA, Shoko FUCHIKAMI, Sumika TSUNEMATSU

【はじめに】

滝廉太郎は、明治の洋楽移入期における日本の代表的な作曲家の一人である（松本, 1996）。我が国最初の洋楽音楽の手法を用いて、50近い歌曲や器楽曲を23年11ヶ月という短い生涯の間に作曲した。その中でも『荒城の月』は、明治34年に12歳から14歳まで過ごした大分県竹田市の岡城を想い作曲したといわれている（松本, 1996）。

荒城の月は、現在の小学校学習指導要領の鑑

賞曲として特別の指定はないが、改訂前（平成元年度版）まで第5学年の鑑賞共通教材として指定されていた（文部省, 1998）。表1に示すように一般人を対象にした愛唱歌調査（年齢、性別などを超えて、多くの人々に共通に愛され歌われる歌）では常に上位を占めており（NHK, 1989）、「BS20世紀日本のうた」（1997）でも7位に入っていた。特に大分県では歌い継がれている。

表1 日本のうた・ふるさとの歌 ベスト10

順位	曲名	作詞者・作曲者	教科書使用
1位	あかとんぼ	三木 露風・山田 耕筰	有り
2位	ふるさと	高野 辰之・岡野 貞一	有り（文部省唱歌）
3位	夕やけこやけ	中村 雨江・草川 信	有り
4位	おぼろ月夜	高野 辰之・岡野 貞一	有り（文部省唱歌）
5位	月の砂漠	加藤まさお・佐々木すぐる	
6位	みかんの花咲く丘	加藤 省吾・海沼 実	
7位	荒城の月	土井 晩翠・滝 廉太郎	有り
8位	七つの子	野口 雨情・本居 長世	
9位	春の小川	高野 辰之・岡野 貞一	有り（文部省唱歌）
10位	浜辺の歌	林 古溪・成田 為三	

（1989年度「日本のうた・ふるさとの歌」NHK・日本音楽著作権協会より）

本研究では、滝廉太郎と荒城の月が人々に親しまれ今日まで歌われてきたかについて、レビュー研究、現地調査及び質問紙による調査研究を実施し、音楽、教育、調査の3つの分野から詳細に検討した。また、この曲を次世代の子どもたちにどのように伝えることができるかについての可能性も検討した。

【方法】

レビュー研究

荒城の月に関する、歴史、曲調、土井晩翠及び歌詞を明らかにした。

滝廉太郎に関する、生育歴、作品（声楽曲・器楽曲・編曲）及び声楽曲の特徴を明らかにした。

現地調査

日時：2003年3月
 場所：大分県竹田市（岡城址）と大分市（遊歩公園）。
 調査内容：滝廉太郎と荒城の月と現地との関連を調査した。

質問紙調査

対象者：S県に在住している一般就業者（20～60代以上）30名、O県B大学学生176名及びO県K小学校6年生112名を対象に一斉調査をした。なお小学生には、荒城の月の観賞させた後、印象について答えてもらった。
 日時：2003年3月～6月に被験者ごとに実施した。
 調査項目：荒城の月に関する作詞者・作曲者の知名度、認知度、好感度・その理由、熟知度、曲の印象・イメージ、曲の印象、鑑賞後の印象（小学生のみ）、なお調査用紙は末尾に添付した。

【結果と考察】

レビュー研究

荒城の月の曲調について

<原曲>

荒 城 の 月

土井晩翠作歌
滝廉太郎作曲

Andante

1. はるこうみちの はなのえん めぐるさかずき かげさして
 2. あまじんえいの しものいろ なきゆくかりの かずみせて
 3. いまこころじゆの よわのつき かわりぬむかり たがためぞ
 4. てんじゆかげは かからねど えいこほつつ よのす

わしのひかりり いまづこ
 りのひかりり いまづこ
 まつにうたうは ただあし
 うつさんとてか いまもなほ あまこころじゆの よわのつき

一、 琴高僧の花の葉
 めぐるさかずきして
 千代の松が枝をけいでし
 昔の光 いまいづこ

二、 秋雁の響の色
 鳴きゆく雁の影見せて
 横うらつるまに雁月そひし
 昔の光 いまいづこ

三、 いま荒城のよほの月
 昔らぬ光たためぞ
 涙に落ちるはたごからし
 涙に歌ふはたごからし

四、 天上影は昔らねど
 笙笛は待る世の衆
 写さんてか今もなほ
 鳴野荒城のよほの月

荒 城 の 月
作歌 土井晩翠

<編曲>

荒 城 の 月

土井晩翠作歌
滝廉太郎作曲
比佐洋行編曲

原曲を編んで (J=60)

1. はるこうみちの はなのえん めぐるさかずき かげさして
 2. あまじんえいの しものいろ なきゆくかりの かずみせて
 3. いまこころじゆの よわのつき かわりぬむかり たがためぞ
 4. てんじゆかげは かからねど えいこほつつ よのす

のぐるさかずき かげさして
 なきゆくかりの かずみせて
 かわりぬむかり たがためぞ

表2 荒城の月の概要

発表年	明治34年3月	音程	短2,3,6 長2,3 完4,8
作詞	土井晩翠	音域	口～ニ
調	口短調	フレーズ	4
			16分音符 8分音符
拍子	4分の4	音符	付点8分音符 4分休符
小節	8	形式	2部

表2に示しているように、荒城の月は、4分の4拍子で、全体わずか8小節の短い楽曲である。この曲の特徴は、口短調であるが音階の第7音が出現しないことから、当時西洋音楽を体感していない日本人にとっても、なじみ深い日本伝統音階に近い形で作曲されている。明治以降に多く使われるようになった4番目と7番目の音階を抜いたいわゆる「ヨナ抜き短音階」に似ている。8小節の楽曲でありながら、日本人の情感を生かしかつ伝統的日本音階を考慮した作品であり、明治の人々に広く受け入れられた。原曲では2小節目の第4音が嬰ホ音で書かれているが、山田耕筰の編曲からホ音へと変化した。これは、当時の日本人にとって調性以外の派生音は経験がなく、歌いづらかったため次第になくして歌われるようになったというのが主説である（松本、1995）。山田耕筰の編曲により、ピアノ伴奏がつき、二短調に変更し、旋律全体が16小節に拡大され、第9小節に付点4分音符を使い、低音ながらもフォルテで歌うことにより楽曲の中心部に重量感を持つようになった。全体的にゆっくりと、情感を込めて歌われる芸術性の高い声楽曲として生まれ変わった。しかしながら、廉太郎の意思としてはこの嬰ホ音は日本音楽を大事にしつつも、日本音楽に無い西洋の新しい音楽を取り入れる姿勢のあらわれだったことが示唆される。

土井晩翠について

東北仙台に生まれ、東京帝国大学英文科に進学した。音楽学校から作歌を依頼され、その中に荒城の月が含まれていた。晩翠によると、この題を見て浮かんだのは鶴ヶ城であり、かつての繁栄すら知ることができないほど荒れはてた城跡を見て、強く心をうたれたといわれている。

しかし、一方では晩翠の郷里仙台の地に伊達政宗が創築した東北一を誇る名城青葉城からも素材を得たという報告もみられる。

荒城の月の歌詞について

『荒城の月』の美しさは、メロディーの悲壮感とともに、土井晩翠の格調高い優れた詞にあるといえる。1番の歌詞は「春高樓の下で、宴が行われ、盃がかわされるが、一方ではその栄華に影りがさしている。千年もたっている松の木の枝をかきわけてでるその栄華の光は、今どこへ行ってしまったのだろうか」、2番の歌詞は「雁が渡り陣営に霜がおきる秋の頃、戦いで倒れた武士たちのそばに、鳴きゆく雁の数をも超える剣が、まるで植えられているかのように立ち並ぶ。その剣を照らした光は今どこに行ってしまったのだろうか」、3番の歌詞は「荒城での夜の月は、いつの世もかわらない光を照らしている。その光は誰の為なのだろうか。石垣に残っているのはわずかにつる草だけである。松の木はまるで荒れているように歌っているようだ」、4番の歌詞は「高い空はかわらないが、栄枯は移り変わる。これも世の姿である。嗚呼、荒城の夜の月よ、いまもなおそれを写そうとしている」。

このように、『荒城の月』は、栄枯盛衰を歌っており、華やかに栄えてもやがて滅び去ってしまう世の移ろいと、城の空高くに浮かび、いつの世もかわることなく照らす月の光との対比が表されていることが示唆される。

滝廉太郎の生涯・思想

滝廉太郎は、明治12年（1879）8月24日、東京市芝区南佐久間町（現在の港区西新橋）に生まれた。小学校は、当時西洋への窓口として

の港がある横浜に通ったため、外国人とのふれあいがあり、その影響を受けた。廉太郎の姉も音楽を習っており、当時としては珍しく恵まれた環境にあり、西洋音楽への興味を多く示した。父親の転勤により、我が国で最初に西洋文化を受け入れた九州の、大分県尋常師範附属小学校高等科に入学した。明治24年に、竹田に移り、直入郡高等小学校2年に編入し、2年3ヶ月間を竹田で過ごした。度重なる転校は、廉太郎にとってはつらく寂しいものだったが、楽器を手にして奏でることで、まだ見ぬ異国の風景が浮かび、自分だけの音楽の世界に魅了されていった。学校ではさまざまな場面で伴奏を弾くなど音楽の才能を見せた。

明治27年に、東京に上京し、小山作之助の音楽塾である「芝唱歌会」に入った。その後、最年少の15歳で音楽学校の予科に合格し、ピ

アノ・作曲・声楽の指導を受けた。明治31年に音楽学校を優秀な成績で卒業し、明治33年『花』『雪』を含む『四季』、明治34年『荒城の月』、『箱根八里』、『お正月』・『雪やこんこん』・『水あそび』などを含む幼稚園唱歌を作曲した。明治33年には、ピアノと作曲のために音楽学校よりドイツ留学を命じられ、当時の一流の指導者により指導を受けたが病気のため休学し、復学できずに明治35年に帰国した。帰国中ロンドン港外に停泊中、英国留学中の土井晩翠が訪ねてきて荒城の月の作曲者と作詞者が劇的対面を果たした。帰国後、『別れの歌』、『水のゆくえ』を作曲したが、病状がおもわしくなく、11月大分に戻り、『荒磯』と『憾』を作曲した。『憾』は廉太郎の遺作であり、悲痛な叫びが音となって伝わってくる。5月病状が悪化し、明治36年6月29日の午後、23歳10

表3 滝廉太郎の作品（声楽32曲、編曲11曲、器楽2曲）

曲の種類	曲名							作詞者
声楽	「日本男児」	「春の海」	「散歩」	「命を捨てて」	「我神州」	「四季の滝」	「花」	東くめ
	「納涼」	「月」	「雪」	「箱根八里」	「荒城の月」	「豊太閤」	「ほうほけきよ」	滝廉太郎
	「ひばりはうたい」	「鯉織」	「海のうえ」	「桃太郎」	「夕立」	「かちかち山」	「水遊び」	土井晩翠
	「鳩ぼっぼ」	「菊」	「雁」	「軍ごっこ」	「雀」	「雪やこんこん」	「お正月」	中村秋香 etc
	「さよなら」	「別れの歌」	「水のゆくえ」	「荒磯」				
編曲	「尽くせや」	「無常」	「春の野」	「獵夫」	「朧月」	「勇兵」	「懐友」	東くめ
	「春」	「夕立」	「お池の蛙」	「友の墓」				中村秋香 etc
器楽	「メヌエット」	「憾」						

* 太字は滝廉太郎が作詞・作曲したものを示す。

ヶ月の短い生涯を閉じた。なお、表3に廉太郎の作品を示した。

滝廉太郎の声楽曲の分析

図1に、声楽曲の曲数を年ごとに示した。5年間に32曲作曲した。特に明治34年に19曲（荒城の月を含む）と最も多く発表し、この年に中学校唱歌と幼稚園唱歌が出版されたことに関連していることが示唆される。

図2～6までは、拍子・フレーズ・音符の種類・形式・小節数の種類を示した。この結果から、16小節、4分の2拍子・4分の4拍子、

4フレーズ、2部形式、音符の種類は8分音符・4分音符の傾向を持った楽曲が多いことが明らかとなった。つまり、声楽曲の特徴としては、複雑ではなく単純でわかりやすく、歌いやすく、西洋音楽になじみのない当時の人にも受け入れられやすい曲であることが示唆される。『荒城の月』は、小節数は8と異なるがそれ以外は、この特徴に合致している。これらの知見より、荒城の月は、複雑でなく単純で歌いやすくできており、これは小学校の教材に採用された一つの要因として考えられる。

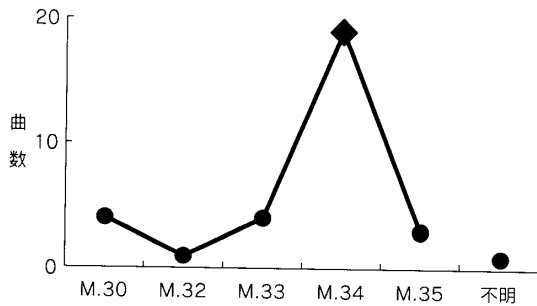


図1 年代ごとの作曲数

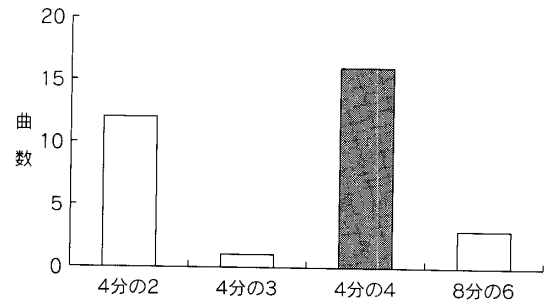


図2 拍子別の作曲数 (■は荒城の月)

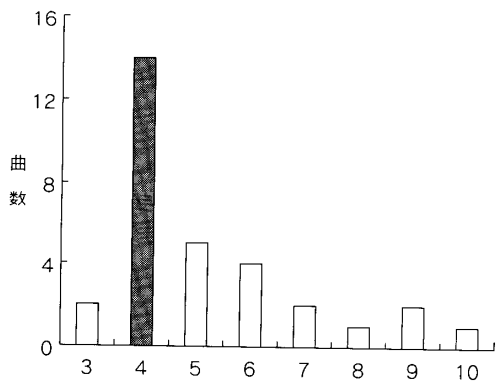


図3 フレーズごとの作曲数 (■は荒城の月)

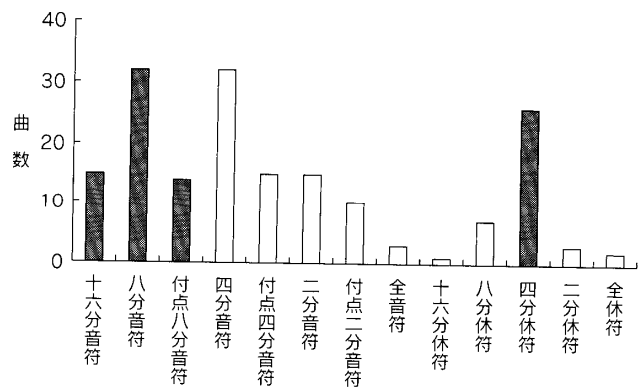


図4 音符ごとの作曲数 (■は荒城の月)

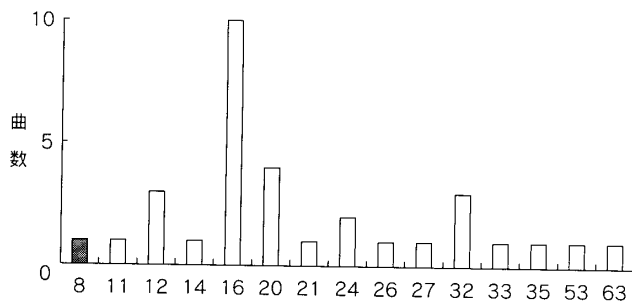


図5 小節ごとの作曲数 (■は荒城の月)

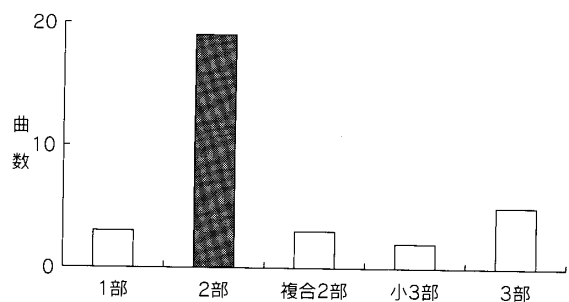


図6 形式ごとの作曲数 (■は荒城の月)

図7は、調性を示しており、ト長調が11曲で最も多く、ヘ長調、ハ長調の順であった。単純な調であり、全体的に音域を高めを設定している傾向があるためにこれらの調の使用が考えられる。『荒城の月』は口短調であり、音域的に歌いやすく、短調独特の情感のこもった楽曲である。

図8は、音程を示しており、「長2」が最も

多く使われていて、次に「短3」「完4」と続いている。日本語は、長2、短3、完4の抑揚が多いので、この音程は日本人にとって歌いやすいといわれている。一方でオクターブの跳躍も多用されていることから、音楽的躍動や感情の起伏をオクターブの跳躍によって表現したかったことがうかがえる。『荒城の月』にも、長2、短3、完4が使われており、こ

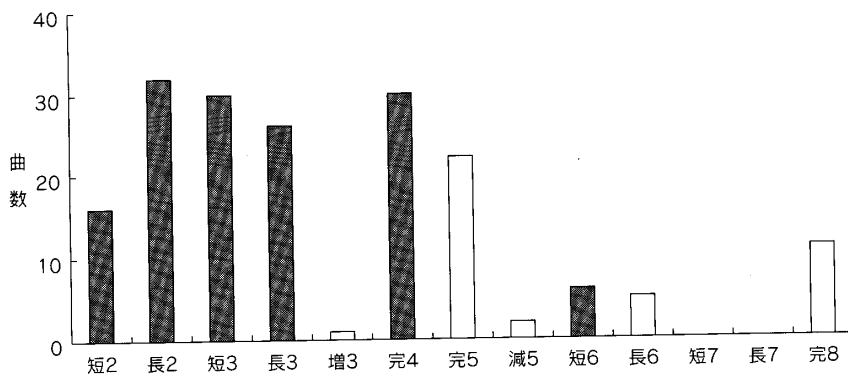


図7 調性ごとの曲数 (■は荒城の月)

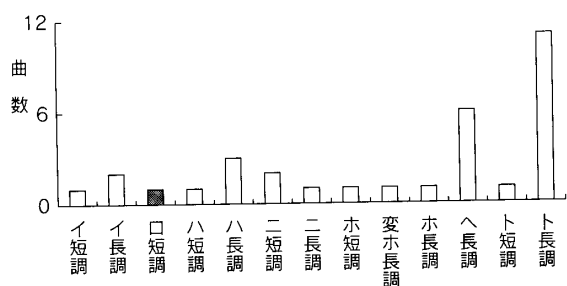


図8 音程ごとの曲数 (■は荒城の月)

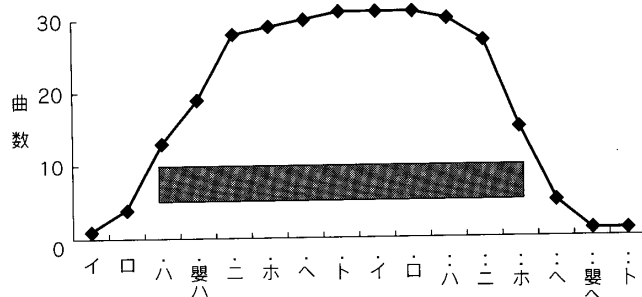


図9 音域ごとの曲数 (■は荒城の月)

の点からも日本人にとって歌いやすくできていることを強調している。

図9は、音域を示したグラフであり、ニ～ニの音域が多いことが明らかとなった。これは一般的に比較的歌いやすい音域であるが、下はイ、上はトであり全体的にみると音域は幅広い。またヘ以上の高音を使用している曲もあり比較的高めの音域を使用していた傾向がうかがえる。『荒城の月』はロ～ニで構成されており、作品のなかでも比較的平均的であり、歌いやすい音域を意識して作曲された可能性が考えられる。

これらの結果から、声楽曲の特徴としては、日本人になじみやすく、単純で複雑ではなく、歌いやすさを意識して作曲されていることがいえる。『荒城の月』もこのような特徴を持つことより、多くの人々に親しまれてきたと考えられる。

現地調査

大分県竹田市・岡城

竹田市の中心部には、滝家の旧宅があり、現

在は滝廉太郎記念館として広く市民に公開されている。記念館までの道には、滝廉太郎にちなんだお土産屋さんが軒を並べていた。記念館には、作曲した曲の自筆譜・絵画・手紙等が、保管されており、廉太郎が過ごした土間や庭がそのまま残されていて、彼の足跡を感じ取ることができた。滝廉太郎トンネルもあり、そのトンネルを人が通ると、『荒城の月』『花』『箱根八里』などの曲がセンサーで流れるようになっていた。

さらに、『荒城の月』のモデルとされた岡城址が残っている。滝廉太郎は竹田市で過ごしていた頃、友人とこの岡城址で遊んでいたと語り継がれている。明確な証拠はないが、『荒城の月』のイメージはこの岡城を想い作曲したといわれている(松本, 1996)。岡城周辺の通りでは、『荒城の月』が随時流れており、岡城の本丸跡には、滝廉太郎銅像と『荒城の月』詩碑が建立されている。

大分県大分市遊歩公園・金池町

現在の遊歩公園は、滝廉太郎が晩年を過ごし、亡くなった場所であり、滝廉太郎銅像が立っている。銅像の制作者は高等小学校時代の後輩、朝倉文夫である。碑文には、「人生は短し 芸術は長し」と尽きせぬ想いが詠みこまれている。

大分市金池町にある万寿寺には、滝廉太郎の墓がある。滝家の旧来の菩提寺は日出町の龍泉寺であったが、万寿寺の住職と父吉弘が親交深かったため葬り、龍泉寺にも分骨した。父、母ともにこの墓に眠っている。この墓の両脇には、妹イクの墓と、明治37年に音楽学校同窓の有志によって建てられた「嗚呼天才之音楽家瀧廉太郎君碑」も並び立っている。

この現地調査より、滝廉太郎が大分県のシンボルとして、愛されまた郷土の誇りとされていることが明らかとなった。

表4 音楽への好感度

	小学生		大学生	
	はい	%	はい	%
音楽が好き	99	88.4	170	96.6

作詞者・作曲者の認知度について、作詞者は大学生と一般、作曲者は三者に調査した。作詞者については、「土井晩翠」と答えた人は、一般に3人だけみられた。ほとんどの人は、無記入であり、大学生の中には「滝廉太郎」と答えた個人が、23%も占めた。作曲者については、「滝廉太郎」と答えた人が、小学生28.6%、大学生59.1%、一般73.3%であった(表6)。これらの結果から、音楽を歌唱したり鑑賞したりする際に、作詞者と作曲者をあまり意識してないことが考えられる。ただし、滝廉太郎についての認知度が高く、『荒城の月』が彼の作品であることは広く知られていることが明らかとなった。小学生については、表6で示した通りに未学習などの理由も含め認知されていなかった。

『荒城の月』を好き(表7)かについては、小学生、大学生とも「どちらでもない」と答えたのが79%、74%と高かった。「好き」と

質問紙調査

音楽の好感度については、小学生88%、大学生96%が、音楽は好きと答えた(表4)。小学生・大学生とも多数が音楽を愛好しており学校教育場面でも重要な位置を占めている教科の一つであることが明らかとなった。

『荒城の月』の認知度については、小学生では聞いたこともなく、曲名を知らない個人が約80%を占めていた。それに対して大学生と一般はそれぞれ92%と100%とほとんどが知っていた(表5)。大学生と一般では、この楽曲に接しており印象が残っていることがうかがえ、小学生では、学校教育や日常生活で『荒城の月』に接していなければ知る機会を持ちえないことを示唆している。

表5 荒城の月についての認知度

	小学生		大学生		一般	
	はい	%	はい	%	はい	%
『荒城の月』を聞いたことがある	33	29.5	162	92	30	100
曲名を知っている	23	20.5	161	91.5	30	100

答えたのは、一般56.7%と半数が好んでおり、小学生4.5%、大学生14.2%と好きな割合が、年齢に依存して高くなっていることが明らかとなった。その理由については、小学生は「聞いたことがないから」が大半を占めており、大学生は「暗いから」が最も多く、次に「聞いたことがないから」が占めていた。一般は、「授業で習ったから」「さみしいから・悲しいから」が最も多かった。小学生は、楽曲に対する知識がなく、好き・嫌いが判断できないためと考えられる。大学生は、曲名を知ってはいるが、歌詞や旋律を認知していなかったり、旋律に対する歌詞がでてこなかったりすることが原因の一つと考えられる。一般は、『荒城の月』に対する定着があり、印象に残っていた可能性があると考えられる。好きな理由に、「綺麗で癒される」が小学生に2人、大学生に7人、「ゆっくりとした感じが好き」が小学生に4人、大学生に4人、一般に3人、「日

表6 荒城の月の作詞者、作曲者の認知

	小学生		大学生		一般	
	はい	%	はい	%	はい	%
作詞者を知っている			19	10.8	3	10.0
作曲者を知っている	31	27.7	89	50.6	18	60.0
どちらも知らない	81	72.3	54	30.7	8	26.7
どちらも知っている			14	8.0	1	3.3
	小学生	%	大学生	%	一般	%
	N		N		N	
作詞者						
土井 晚翠			0	0	3	27
無記入			135	76.7	27	90
滝廉太郎			41	23.3	0	0
作曲者						
滝廉太郎	32	28.6	104	59.1	22	73.3
無記入	80	71.4	68	38.6	8	26.7
その他	0	0	4	2.3	0	0

表7 『荒城の月』についての好感度

	小学生		大学生		一般	
	N	%	N	%	N	%
『荒城の月』を好きか						
はい	5	4.5	25	14.2	17	56.7
どちらでもない	83	74.1	139	79.0	11	36.7
いいえ	24	21.4	12	6.8	2	6.7
理由						
聞いたことがないから	52	46.4	19	10.8	0	0
好きでも嫌いでもない	9	8	9	5.1	0	0
暗いから	8	7.1	20	11.4	2	6.7
わからない・知らない	6	5.4	17	9.7	2	6.7
ゆっくりした感じが好き	4	3.6	4	2.3	3	10
難しいから	3	2.7	0	0	0	0
歌詞がわからないから	2	1.8	3	1.7	0	0
綺麗で癒される	2	1.8	7	4	0	0
なんとなく	2	1.8	2	1.1	2	6.7
興味が無いから	1	0.9	14	8	1	3.3
さみしい・悲しいから	1	0.9	3	1.7	4	13.3
授業で習ったから	0	0	10	5.7	7	23.3
静かだから	0	0	1	0.6	3	10
日本らしい曲だから	0	0	5	2.8	0	0
無記入	16	14.3	51	29.0	5	16.7
その他	6	5.4	11	6.3	1	3.3

表8 『荒城の月』についての熟知度

	小学生		大学生		一般	
	はい	%	はい	%	はい	%
『荒城の月』を歌えるか						
はい	3	2.7	44	25	25	83.3
いいえ	109	97.3	132	75	5	16.7
歌詞の記入						
完璧			11	6.3	8	26.7
だいたい良い			41	23.3	15	50
だめ・無記入			124	70.5	7	23.3

本らしい曲で好き」が学生に5人など『荒城の月』をこのように評価し受け止めていた点は注目に値する。

『荒城の月』を歌えると答えたのは、小学生2.7%、大学生25%、一般83.3%であり、一般では大半が歌えた(表8)。小学生と大学生に関しては、『荒城の月』を耳にする機会が少なく、あいまいにしか覚えてなく、特に小学生では、クラスによっては、鑑賞の経験はあるが歌唱の経験は少なく、ほとんど『荒城の月』に触れていないことが挙げられる。

歌詞の熟知度は、大学生・一般のみに聞いたが、「完璧に書けた人」が大学生6.3%、一般26.7%、「だいたい良い人」が大学生23.3%、一般50%であり、一般の熟知度は高かった。一般は7割以上が知っていたが、大学生は3割であった。これまで述べてきたように大学生の定着率があいまいであるという点が追認された。一般の熟知度の高さは56.7%が「好き」と答えている点からも支持できる結果

といえる。

『荒城の月』の感じについては、「暗い」「静か」「悲しい」の項目で、小学生と大学生・一般に差異がみられた。「暗い」と答えたのが、小学生81.3%、大学生47.7%、一般36.7%、「静か」では、小学生10.7%、大学生54.5%、一般73.3%、「悲しい」では、小学生58%、大学生33%、一般36.7%であった。以上の三項目は、小学生と大学生・一般で感じ方の方向性が異なっている。大学生と一般は、『荒城の月』の題名や作曲者滝廉太郎も考慮した可能性が考えられる。小学生は、日本の昔の歌は暗いという概念があるのかもしれない。「さみしい」は、三者とも「さみしい」と答えた人が多く、曲の感じや、滝の生涯から連想されていると考えられる。「明るい」から「楽しい」までは、どれも「いいえ」が多かった。「ゆるやか」は全体的には多くなく、これは、曲のテンポは人それぞれで感じ方が違うことを示唆している。

表9 『荒城の月』の印象

	小学生		大学生		一般	
	はい	%	はい	%	はい	%
暗い	91	81.3	84	47.7	11	36.7
静か	12	10.7	96	54.5	22	73.3
悲しい	65	58	58	33	11	36.7
さみしい	67	59.8	89	50.6	26	86.7
明るい	2	1.8	0	0	0	0
にぎやか	4	3.6	0	0	0	0
ゆるやか	50	44.6	61	34.7	12	40
はやい	0	0	0	0	0	0
楽しい	0	0	0	0	0	0
その他	18	16	5	2.8	1	3.3

曲に対するイメージ(表9)について大学生では、「暗い」が一番多く、「夜に月が出ている」「昔の歌」の順であった。一般では、「さみしい」が一番多く、「和」「暗い」の順であった。その他では、「どこかに昔の華やかな宴会のイメージがある」「人が何かを思い出して感動している様子を表した曲」「時がとまっているかのように聞こえる」「人生の儚さ」「落ち着く感じ」が挙げられた。この結果から、個人がそれぞれイメージを膨らませており、

まとめることはできないことが明らかとなった。つまり、『荒城の月』は、その曲から多大なイメージを膨らませ、個人がそれぞれの世界を持たせることのできる曲であることが示唆される。

表11から表13に小学生を対象に『荒城の月』の鑑賞後の調査を示している。

表9から表11までの結果から、『荒城の月』は小学生に、難しく、長い楽曲であると捉えられていた。この結果は、前述した『荒城の

表10 『荒城の月』のイメージ

	大 学 生		一 般	
	N	%	N	%
暗い	23	14.7	2	6.7
夜に月が出ている	15	9.6	1	3.3
静か	9	5.8	3	10
わからない	9	5.8	2	6.7
悲しい	8	5.8	0	0
昔の歌	7	5.1	1	3.3
城(荒廃)・月	6	4.5	1	3.3
和	5	3.8	2	6.7
ゆったり	5	3.2	1	3.3
月	5	3.2	1	3.3
さみしい	5	3.2	5	16.7
竹田	4	2.6	0	0
切ない	4	2.6	0	0
その他	16	10.3	2	6.7
無記入	35	22.4	9	30

月』を歌いたくないという結果に反映しており、学校教育で、楽曲のよさを詳しく学ぶ機会が減っていることも原因として考えられる。その中でも、10%は楽曲を好んでおり、「綺麗だから」「歌ってみたい」と答えた個人がいることは注

目に値する。その為に、鑑賞・歌唱だけにとどまらず、その背景や作曲者・歌詞などの説明を行い、この楽曲のよさを伝えるような教育的指導が必要であろう。

表11 『荒城の月』についての好感度

	小学生	
	N	%
『荒城の月』が好きか		
大好き	3	2.7
好き	7	6.3
どちらでもない	76	67.9
嫌い	16	14.3
大嫌い	10	8.9

表12 『荒城の月』の難しさ・長さ

	小学生	
	N	%
『荒城の月』は難しいか		
難しい	95	84.8
普通	16	14.3
やさしい	1	0.9
曲の長さはどうか		
短い	1	0.9
普通	27	24.1
長い	84	75

表13 『荒城の月』への意欲とその理由

	小学生	
	N	%
『荒城の月』を歌いたい		
歌いたい	4	3.6
どちらでもない	56	50
歌いたくない	52	46.4
理由		
難しいから	42	13.2
暗いから	14	4.4
知らない・わからない	9	2.8
しぶいから	8	2.5
歌が嫌いだから	6	1.9
こわいから	5	1.6
悲しいから	3	0.9
どちらでもない	3	0.9
歌ってみたい	2	0.6
綺麗だから	1	0.3
その他	2	0.6
無記入	17	5.3

鑑賞前と鑑賞後の曲の感じ方（表14）については、鑑賞前より「暗い」「静か」「悲しい」「さみしい」「ゆるやか」の項目が明らかに増加した。特に「静か」、10.7%から88.4%にも

増加した。この増加は、楽曲へのイメージの定着があったと考えられる。この結果より、小学生は、『荒城の月』を暗く、静かで悲しく、さみしい曲ととらえていることがわかった。

表14 『荒城の月』の印象

	小学生			
	鑑賞前		鑑賞後	
	はい	%	はい	%
暗い	91	81.3	95	84.8
静か	12	10.7	99	88.4
悲しい	65	58	72	64.3
さみしい	67	45	76	67.9
明るい	2	1.8	1	0.9
にぎやか	4	3.6	5	4.5
ゆるやか	50	44.6	55	49.1
はやい	0	0	1	0.9
楽しい	0	0	0	0
その他	18	16	0	0

【まとめ】

小学校新学習指導要領では、鑑賞共通教材の指定がなくなり、今後荒城の月が、学校教育場面で扱われない可能性も出てくる。この楽曲は、日本人になじみやすく複雑でなく、哀愁をおびた詩の情景が浮かぶような旋律感、優れた格調高い詩が備わっている。日本の歌

曲として重要な楽曲である『荒城の月』は忘れ去られて欲しくない歌曲である。

調査結果より、『荒城の月』は大学生と一般では約9割が知っていたことが明らかとなった。作曲者を「滝廉太郎」と答えた人は、小学生3割、大学生6割、一般7割で認知度は高く『荒城の月』が彼の作品であることは広く知られていることが明らかとなった。好感

度では、一般の半数が好んでおり、年齢に依存して高くなった。好きな理由に、「綺麗で癒される」「ゆっくりした感じが好き」「日本らしい曲で好き」など肯定的に評価した点は注目に値する結果であった。イメージでは、個人がそれぞれイメージを膨らませており、特定のものにまとめることはできなかった。つまり『荒城の月』は、その楽曲から多大なイメージを膨らませ、個人がそれぞれの世界を持たせることのできる楽曲であることが示唆される。

本研究より、『荒城の月』は、楽曲も素晴らしく、人々に愛着をもたれるような楽曲であり、色々な視点からこの楽曲のことを考えることができ、その考えに基づいて様々な表現を生み出せるような可能性を持った曲であることが示唆される。しかし、現段階では、学校教育や日常生活で荒城の月に接する環境があまりなく、知る機会さえ持ちえず、楽曲を学ぶ機会が減っている。

今後の取り組みとしては、この素晴らしい楽曲が歌い継がれていくために、学校教育で魅力ある指導方法を見出していきたい。

【注意】

本論文は、矢島潤平と藤田光子の共同作成により、すべての作業における両者の貢献は平等であった。本研究を行うにあたり、ご指導、ご鞭撻頂きました元別府大学短期大学部初等教育科教授岡本絢子先生に感謝いたします。

本論文は、専攻科初等教育専攻2003年度修了レポート「滝廉太郎の歌曲『荒城の月』に関する音楽－教育－調査研究のクロストーク」(瀧上聖子)をもとに加筆修正したものである。

【文献】

- 瀧上聖子 (2003) 滝廉太郎の歌曲『荒城の月』に関する音楽－教育－調査研究のクロストーク 学位レポート (専攻科初等教育専攻)
株式会社 音楽之友社 新編小学校の音楽5 教師用指導書 p.162
東京放送 音楽之友社 音楽之友社ミュージックビデ

- オ・ライブラリー世界の大作作曲家生涯と作品6 滝廉太郎 生涯
松本正 (1996) 大分県先哲叢書 滝廉太郎[普及版] 大分県教育委員会 p.114
小長久子 (1979) 滝廉太郎全曲集 音楽之友社 p.50, p.92
カワイ音楽企画 (2002) 音楽用語ハンドブック (株)河合楽器製作所・出版事業部 p.124
松本正 (1995) 大分県先哲叢書 滝廉太郎 大分県教育委員会 p.278
文部省 (1998) 小学校学習指導要領解説, 東洋出版社 東京放送 音楽之友社 音楽之友社ミュージックビデオ・ライブラリー世界の大作作曲家生涯と作品6 滝廉太郎 音楽之友社
松本正 (1996) 大分県先哲叢書 滝廉太郎[普及版] 大分県教育委員会
松本正 (1995) 大分県先哲叢書 滝廉太郎 大分県教育委員会
小長久子 (1979) 滝廉太郎全曲集 音楽之友社
大分県教育庁文化課 (1994) 大分県先哲叢書 滝廉太郎 資料集 大分県教育委員会
『荒城の月』オフィシャル <http://www.ko-jo.com/>
歌い継ぎたい日本の愛唱歌
<http://www.geocities.co.jp/Hollywood-Kouen/1714/ka99.html> - 24k

一般就業者と大学生への調査用紙

年齢 () (男 ・ 女) 氏名 ()
 <『荒城の月』に関するアンケート>

1、あてはまるものに○を付けてください。

①音楽は好きですか。 1 はい ・ 2 いいえ

②『荒城の月』を聞いたことがありますか。 1 はい ・ 2 いいえ

③この曲名を知っていましたか。 1 はい ・ 2 いいえ

④この曲の作詞者・作曲者を知っていますか。
 1 作詞者を知っている ・ 2 作曲者を知っている ・
 3 どちらも知らない

⑤誰か答えてください。
 作詞者 _____ 作曲者 _____

⑥この曲が好きですか。 1 はい ・ 2 いいえ ・ 3 どちらでもない

⑦その理由を書いてください。
 []

⑧この曲を歌えますか。 1 はい ・ 2 いいえ

⑨この曲の歌詞をわかるだけ書いてください。
 []

⑩この曲はどんな感じがしますか。(複数○可)
 1 暗い・2 静か・3 かなしい・4 さみしい・5 明るい・6 にぎやか・
 7 ゆるやか・8 はやい・9 楽しい・10 その他 ()

⑪この曲はどんなイメージがしますか。
 []

小学生への調査用紙

年 番 名前 () (男 ・ 女)
 <『荒城の月』に関するアンケート>

1、あてはまるものに○を付けてください。

①音楽は好きですか。 1 はい ・ 2 いいえ

②『荒城の月』という曲名を知っていますか。 1 はい ・ 2 いいえ

③『荒城の月』を聞いたことがありますか。 1 はい ・ 2 いいえ

④『荒城の月』の作曲者を知っていますか。

⑤その人は誰ですか。 _____

⑥『荒城の月』は好きですか。 1 はい ・ 2 いいえ ・ 3 どちらでもない

⑦その理由を書いてください。
 []

⑧この曲を歌えますか。 1 はい ・ 2 いいえ

⑨この曲はどんな感じがしますか。(いくつでも○をつけていいです)
 1 暗い・2 静か・3 かなしい・4 さみしい・5 明るい・6 にぎやか・
 7 ゆるやか・8 はやい・9 楽しい・10 その他 ()

2、『荒城の月』のCDを聞いた後、あてはまるものに○を付けてください。

①『荒城の月』は好きですか。 1 好き・2 大好き・3 どちらでもない・
 4 嫌い・5 大嫌い

②この曲を歌いたいですか。 1 歌いたい・2 どちらでもない・
 3 歌いたくない

③その理由を書いてください。
 []

④この曲を歌うのはむずかしいですか。 1 むずかしい・2 ふつう・3 やさしい

⑤曲の長さはどう思いますか。 1 短い・2 ふつう・3 長い

⑥この曲はどんな感じがしますか。(いくつでも○をつけていいです)
 1 暗い・2 静か・3 かなしい・4 さみしい・5 明るい・6 にぎやか・
 7 ゆるやか・8 はやい・9 楽しい・10 その他 ()